

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201263		
法人名	北商株式会社		
事業所名	ライフケア北倶楽部		
所在地	札幌市北区北28条西12丁目3-13		
自己評価作成日	平成22年5月6日	評価結果市町村受理日	平成22年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>年4回3施設合同(会社)で、オリエンテーションをしている。スタッフの異動があっても利用者さん達は懐かしそうにスタッフに笑顔を見せてくれる。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201263&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170201263&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年5月18日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ライフケア北倶楽部」は、バス通りに面し商店などが建ち並ぶなど生活の利便性に優れた住宅地に位置している。寿司店を改装した和風な建物は室内も落ち着き、居室の入口は趣がある引き戸で、元々のデザインを活かしている。グループホームや小規模多機能型居宅介護など福祉関連の複数事業を展開している法人のバックアップ体制も充実しており、職員の意見も十分に汲み取り、業務の効率化を図り、管理者や職員と共にお互いにケアの向上を目指して日々取り組んでいる。本部の役職者は市役所や区役所に積極的に訪問して日頃から情報交換を行い、ケアサービスの向上に取り組んでいる。前回の外部評価の取り組みを期待したい項目にも積極的に取り組みが行われている。基本理念を基に全職員で考えた「目くばり、気くばり、心くばり」という事業所独自の目標を掲げ、近隣とも心くばりを大切に交流を深め、地域ボランティアが訪問して利用者と一緒に話をしたり喫茶店に出かけたりと、利用者が地域と関係を持ちながら日々生活できるように支援している。居間のテーブル配置を工夫することで、それぞれの利用者が気の合う人と一緒に食事をしたり会話を楽しむなど、利用者は穏やかな明るい笑顔で生活している。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念と共に、北俱樂部独自の理念を取り決め出来る限り実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人の基本理念を基に、利用者や地域住民との関わりを意識し「目くばり、気くばり、心くばり」という事業所独自の目標を全職員で今年作成し、居間などに掲示して実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の運動会などに参加させていただきグループホームを知っていただく機会を設けています。	町内会に加入して、お祭りや盆踊りに参加している。利用者の話し相手のボランティアが月2回程訪問したり、山菜のお裾分け、手作りケーキをもらうなど近隣と交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場に利用者さんの知り合いの方にも出席していただき認知症への理解などの話し合いをしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で意見交換をしてスタッフミーティングなどに生かしています。	町内会代表、地域包括支援センター職員、利用者などが参加して災害対策などを議題に3回開催しているが、家族の積極的な参加は得られていない。外部評価については、開催時期が合わず議題に取り上げていない。	今年度作成した年間計画を基に、定期的な運営推進会議の開催を期待したい。家族の参加や家族からの意見収集方法を考慮し、外部評価の議題も含め会議が更に充実するように期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者会議に出席したり、本部担当者が、札幌市担当者と連絡を取り合い相談等をしています。	本部の役職者が積極的に市役所や区役所、消防署を訪問して、災害対策や生活保護の相談を行い、ケアのサービスや向上に取り組んでいる。市町村と連携を深めるため、常にメールで連絡を取ったり訪問を心掛けている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を正しく理解できるよう、スタッフ全員で話し合っています。	勉強会やミーティングで身体拘束について話し合ったり、マニュアルを整備するなど、言葉による拘束も常に意識してケアを行い、利用者の意思を尊重して見守りながらの支援を心掛けている。玄関の施錠は夜間のみ行い、利用者が自由に外出できるようになっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は常に会議の場を持ち、スタッフ、利用者のモニタリングをしたり、注意を払っている。		

ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんが管理している中で、出来ていない為、銀行等から後見人制度を利用してみては？と話があり、包括センターと相談をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書を用いて十分に説明後、書面にて契約を行なっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問時、意見交換を行ったり、オリエンテーション等に参加していただいている。	家族の来訪時に意見の収集を意識的に行い、ケアに役立てるようにしている。行事やレクリエーションは利用者から意見を聞いて、楽しく参加できるように工夫している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はスタッフと意見交換を行い、取りまとめその意見を全体会議で会社に報告しています。	ミーティングなどで職員の意見を聞き、本部会議で報告して、職員の意見が反映できるようにしている。記録書類の書式やパソコンによる書類管理でケアに十分時間をかけられるようにするなど工夫している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の置かれている生活環境や、個々の能力をよく把握した上で、雇用条件を決め、また労働意欲を向上させるような職場環境を整備している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、いろいろな研修に参加できるようにシフトを組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加したり、他の施設を見学させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に利用者及び家族等から十分に聞き取りを行い、認知に関わるメンタルケアに重点を置いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望や、相談には出来る限り対応させていただきよう、話し合いの時間を持っています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、介護認定の状況を踏まえ必要に応じて支援を行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない部分をお手伝いしたり、また一緒に行うことで一方的な介護にならないよう心掛けている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフのケアでは補えない部分は可能な限りご家族に関わっていただくよう、電話や面会の機会を設けていただけるようお願いしています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2度知り合いの方が来られ、ゆっくりお話が出来るよう支援させていただいています。	利用開始前からの趣味や好み、仕事暦などを把握して、山菜取りや畑仕事などが継続できるように工夫している。行きつけの理美容や喫茶店、墓参りなど、個別支援を心掛けて以前の生活が継続できるように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が、お互いに助け合ったり、人間関係を構築できるような環境づくりを心掛けています。		

ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者に対しても、その後の状況を把握する為、面会の機会を持ち、問題が生じていないか関係者と相談を行っている。			
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り対応してスタッフ全員でミーティングを行いながら検討しています。	日々の会話の中から本人の意向や思いを把握したり、表情や動作を見ながら具体的に問いかける事で、それぞれの利用者の意向に沿ってケアができるように配慮している。		利用開始前の生活歴や日々の利用者の情報を、記録用紙の書式を十分活用して蓄積する事で、個々の利用者を更に把握できるように期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	野菜、花、買い物、外食、喫茶店等、自由に出来る限り利用者のニーズに対応したサービス提供を行っている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活の聞き取り、その人らしい生活が出来よう協力支援。			
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー、スタッフ全員でモニタリング、意見など出して、常に介護方針が共有できるよう話し合っています。	家族などの関係者から情報を得て利用開始時に暫定計画を作成し、1ヶ月程で見直しをしている。定期的な介護計画は3ヶ月毎に全職員で見直し、入院など変化があれば随時見直しを行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報交換を行い実践。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人とご家族との現在の関係を把握して、外出、外泊の調整を行っている。			
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して生活できるよう、地域との繋がりを持つためにも、ボランティアの協力を呼びかけている。			
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科、内科等の提携医療機関があり、定期往診や24時間対応を利用している。	かかりつけ医の継続は可能であり、受診送迎も可能な限り職員が行っている。提携医療機関の医師や個別契約の看護師が定期的に来訪して利用者の健康管理を行っている。		

ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは日々の利用者の状態を看護師に報告し、看護師は状況を踏まえ、必要な情報を提携医療機関へ提供している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とよく相談し、安心して生活復帰が出来るよう支援を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人及びご家族から希望を聞き、可能な限り支援を行っている。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成して、利用開始時に家族と本人に説明している。利用者の状況に応じて、重度化した場合は医師や家族と随時対応を話し合うようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間研修計画に基づき、救命講習等を受講している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上、いろいろな条件で想定した訓練を行っている。	消防設備会社の立ち会いの下、6月と12月に避難訓練を行い、前年度は、3月にも夜間想定での避難訓練を行っている。今後は、地域も含めた連絡網を整備する意向である。	
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相談時は個別に対応できるよう、個室で相談したり、自尊心を傷つけないよう、言葉遣いには配慮している。	プライバシーに関する勉強会を行い、利用者の言葉は否定しないで受け止め、人格を尊重するよう配慮している。利用者自身が、介護されていると感じないようなケアを心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、本人が主張できる環境づくりを心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の要望に個別対応できるよう、運営方法でカバーできる部分は対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向も聞きながら、個別対応を行っている。		

ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好き嫌いを把握し、調理の際、外したり個々の要望に柔軟に対応できるよう工夫しています。	献立は食材委託業者が作成しているが、利用者に応じて調理方法を変えたり、好きなデザートを取り入れるなど工夫している。テーブルの配置を工夫し、好きな場所で食事が楽しめるようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に合わせ量を調整している。水分摂取量のチェックを行い、不足がわかるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自発的に出来ない利用者には声掛けを行い不十分な所はスタッフが介助を行い支援している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排出できるように声掛け誘導を行っている。	本人が安心感を得られるようにパットを利用する事もあるが、排泄記録を取り個別に声かけをしたり、仕草で把握して、できる限りトイレでの排泄が継続できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ薬に頼らないように、食物繊維や乳製品を利用する等の対応を行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向や体調を考え、個別対応を行っている。	個々の利用者の希望に応じて、朝から夕方まで好きな時間に週2回以上入浴できるように支援している。利用者の希望で中から鍵を掛けられるようにし、落ち着いて入浴できるよう工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時の快適な環境づくりに配慮し、温度や明るさ等個別に調整を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの処方箋情報はスタッフ全員が把握し、必要に応じた服薬支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好を理解し、また過去の生活状況を踏まえ、個別に対応を行なっています。		

ライフケア北倶楽部

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の状況に応じた支援を本人やご家族とよく相談し支援しています。	冬季以外ではできる限り戸外に出かけられるように、利用者の家族や知人の協力なども得ながら個別の外出支援に努めている。車椅子の利用者も近隣を散歩したり、公園に出かけるなど外気に触れる機会を増やすよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人及びご家族から希望を聞き、個別の対応を行なっています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別対応にて対応しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な、模様替えで気分転換を行なったり、また季節に沿ったガーデニング等で対応しています。	居間の大きな窓からは明るい光が差し込み、利用者が落ち着いて過ごせるように配置したテーブルにはチューリップの花を飾り季節感が感じられるように工夫されている。階段にはセンサーを付けて利用者の昇降を把握して、安全面に配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは利用者にあった人間関係が構築できるような家具のレイアウトをしています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の慣れひたしだ家具等を置いたりして、今迄の生活の延長で暮らせるような環境を作っています。	ベッドとカーテンは備え付けられているが、箆箆やテレビなど使い慣れた物が持ち込まれており、落ち着いて過ごせるように工夫されている。花や家族の写真もバランス良くレイアウトされて飾られている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	適度に危険察知能力が失われないような環境づくりを工夫して行っています。		

目標達成計画

事業所名グループホームライフケア北倶楽部

作成日：平成 22年 6月 10日

市町村届出日：平成 22年 6月 16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・定期的(概ね2ヶ月に1回)の運営推進会議の開催やスケジュールが合わず、参加メンバーに利用者の家族等の参加の機会が少ない。	・定期的な運営推進会議の開催を計画し、また今まで以上に参加メンバー数を確保したい。参加ができない場合でも欠席者に議事録を配布し、また意見を反映できるように工夫したい。	・年間スケジュールの運営推進会議のスケジュールを盛り込む。また、施設のイベントに参加していただけるよう呼びかけを行う。家族に対しては定期的な広報と一緒に運営推進会議に関する資料を同封する等、家族に対する情報公表を心掛ける。	今年度中
2	23	・利用者と家族の人間関係の問題や知人等が少ない為、利用者の利用開始前の生活歴等のメンタルケアを行う上での情報が少ない。	・可能な限り日頃のケアを通じて本人から聞き取れる情報を集約したり、また疎遠になっている家族や知人に対しても人間関係の修復の支援を行う。	・収集した情報については、ケアマネジャーが集約し、定期的にファイスシート等各種帳票の更新を行う。	今年度中
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。